


2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 足立中学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	足立中学校 ・1年生 126名 ・2年生 103名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科等名 () ② 行事名 () ③ その他 (○) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・リオパラリンピック車いすテニス日本代表二條実穂氏の話聞き、車椅子の使用体験などを行うことにより、パラリンピック競技に興味を持たせ、東京大会に向けた機運醸成を図る。 ・車椅子を使って生活する苦労や工夫を知り、障害をもった方たちとの共生する社会について考え、誰もが気持ちよく生きるために必要なことを実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	「リオパラリンピック車いすテニス日本代表二條実穂氏の講演と交流」 ・前日12月15日（火）6校時、事前学習としてプリントの読み合わせを行った。「二條氏の簡単な紹介」「車いすテニスのルール説明」「パラリンピアンたちに秘められた力」「東京2020パラリンピックの紹介」など。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">二條実穂選手が足立中学校に来る！</p> <p style="text-align: center;">2016年 リオデジャネイロ パラリンピック 車いすテニス 女子ダブルス 4位入賞</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div> <p>女子シングルス銅メダルの上地結衣選手とペアを組み、惜しくも3位決定戦で敗れる。東京パラリンピックを目指していたが、2019年5月に引退。</p> </div> </div> </div>

車いすテニス

一又式

車いすテニスは、1992年のバルセロナ大会から正式競技となりました。コートやネットの高さも一般のテニスと同じで、ツーバウンド以内での返球（ツーバウンド目はコートの外でもよい）が認められていること以外は、一般のテニスとほぼ同じルールで行われます。車いすは、回転性や敏捷性が求められ、競技技術はもとより、車いすの操作技術が重要です。男女別のシングルスとダブルスのほか、2004年のアテネ大会からは、男女混合のクアードクラス（車いす使用の三肢以上に障害のある選手対象）のシングルスとダブルスが正式種目となりました。上肢にも障害があるこのクアードクラスでは、ラケットと手をテーピングで固定することが認められており、障害の程度によっては電動車いすを使用する選手もいます。

- 3セットマッチで、2ゲーム以上差をつけて、6ゲームを先取したプレーヤーがそのセットの勝者となる

【パラリンピアンの魅力に迫ろう！】

二條実穂選手は2004年の23歳の時の事故で、車いす生活になってしまい失意に落ちていた。しかし、入院している時に偶然、「車椅子テニスのドキュメンタリー番組」を見て、元々学生時代にテニスの経験があった二條実穂選手は、自分も車椅子テニスをやる事を決心し、退院して5日後にはテニスを始めた。

パラリンピックとは、障害があるトップアスリートが出場できる世界最高峰の国際競技大会である。国際パラリンピック協会は、パラリンピアンたちに秘められた力こそが、パラリンピックの象徴であるとし、次の4つの価値を重視している。「勇気」～マイナスの感情に向き合い、乗り越えようと思う精神力～「強い意志」～困難があっても、諦めず限界を突破しようとする力～、「インスピレーション」～人の心を揺さぶり、駆り立てる力～、「公平」～多様性を認め、創意工夫をすれば、誰もが同じスタートラインに立てることを気づかせる力～。そのようなパラリンピックの舞台に日本代表として立つ事ができた二條選手の苦労や努力の過程を聞いて、「夢や目標を持つことの大切さ」や「何事も諦めずに挑戦することの大切さ」について考えてみよう。

【東京パラリンピック近づく！】

東京 2020 パラリンピック

2021年8月24日（火）～9月5日（日）障害のあるトップアスリートが出場する、4年に一度開かれるスポーツの祭典。大会を通じ共生社会の実現を目指している。22競技で競われる。

【22競技の種類（50音順）】

アーチェリー/カヌー/車いすテニス/車いすバスケットボール/車いすフェンシング/車いすラグビー/ゴールボール/5人制サッカー/シッティングバレーボール/自転車/射撃/柔道/水泳/卓球/テコンドー/トライアスロン/馬術/バドミントン/パワーリフティング/ボート/ボッチャ/陸上競技



【パラリンピックのシンボルマーク】

「スリー・アギトス」と呼ばれ、「アギト」とはラテン語で「私は動く」の意味。「困難な状況に直面しても、諦めずに、己の限界に挑戦し続けるパラリンピアンを象徴している。

【共生社会の実現】

「障害のある、なしに関わらず、共に積極的に参加・貢献していくことができる社会」の実現に向けた世界的な動きに大きな影響を与えている。

- ・新型コロナウイルス対策のため、3・4校時に1年生、5・6校時に2年生と2回に分けて行った。
- ・障がい者となった経緯とその後の意識改革と努力の様子とリオパラリンピックでの活躍の講演会と、車椅子



子の体験会を行った。

・講演会では、プレゼンによって車いすテニス選手になった経緯や周囲の人に支えられて精神的に成長した話をしてくれた。当時世界ランキング1位の上地結衣選手とのペアで世界選手権3位になったダブルスの試合のDVDを視聴し、リオパラリンピックダブルス4位になるまでの苦労、チームとして助け合うことの大切さ、障がい乗り越え活躍していくための努力について教えられた。プレッシャーに押しつぶされそうな時に、プロ野球のファイターズ栗山監督の「プレッシャーを楽しんで来てください」という言葉でポジティブに考えるようになった話などが生徒の印象に残った。



・車椅子体験会では、全生徒が交代で競技用車椅子に乗車してコーンをターンして戻る体験と、ソフトテニス部の代表生徒による車いすテニス体験を行った。車椅子走行の大変さやUターンする難しさを学ぶことができた。予告なしの教師による車椅子競走と二條氏と車椅子に乗っていない教師とのテニスのデモンストレーションは大変盛り上がり、トップアスリートの車椅子さばきと強烈なスマッシュで大歓声がおきた。



・二條氏への質問タイムでは、興味を持った子たちが積極的な質問を出していた。



・放課後、校長室でソフトテニス部の生徒たちと座談会をしていただきテニスについてのアドバイスや簡単なトレーニング方法を教えてくださった。生徒たちは、自分のノートやクリアファイルにサインをしていただき、感動していた。



6 主な成果

・二條選手の生き様や絶対にあきらめない精神力、リオパラリンピックの様子など大変わかりやすい講話だった。「自分と誰かを比べない。比べるのは過去の自分」「無理とは絶対に言わない」など、将来の展望・夢などに刺激を与えてくれた。

・競技用車椅子と車いすテニスの体験を通して、車椅子操作や競技の難しさを実感するとともに、障がいがありながらも巧みに車椅子を操作して、プレイする二條選手の凄さを実感することができた。車椅子を使う立場になって考え、障がいをもった人に対する見方が変わり、障がいをもった人たちと共生する豊かな社会をつくらうとする心情を養うことができた。

・1・2学年それぞれの生徒が、二條選手からたくさんのことを教えていただいた感謝の気持ちを代表生徒からお礼の言葉を述

	<p>べ、二條選手からメッセージを記入した色紙をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動生徒は、障がいを持ちながら努力を重ねてトップアスリートとして世界で活躍した二條選手への尊敬の念を持ち、その心情の強さを感じ、生き方について考え、生徒自身の目標へとつなげることができた。 ・嫌な出来事でもすべてのことには意味があり、目標を立てて前向きに向かっていくことが大切で、壁にぶつかっても「不可能」を「可能」に変えていく姿勢をもつ気持ちが芽生えた。 ・パラリンピックや車いすテニスに興味がわき、東京 2020 パラリンピックを応援する気持ちをもつ生徒が増えた。
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に生徒が体験できる場面や選手の動きを見る場面を取り入れ、ハンディキャップのある人の大変さを感じるとともに、障がいがありながらもアスリートとして活躍した選手の凄さを実感できるように場の展開を工夫した。 ・講演では、世界選手権3位、リオパラリンピック4位までの努力の様子やペアと一丸となって取り組む姿勢や苦労話で、生徒たちにスポーツを通して助け合う心や努力の大切さ、障がいに負けない心の強さを実感してもらうように配慮した。 ・滅多に乗ることのない競技用車椅子を参加生徒全員に体験させることができた。 ・則松中学校の江口校長が参加校の実践マニュアルを作成してくださり、競技用車椅子の受け取りや運搬をスムーズに行うことができた。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・数校合同で講師を招聘したために規定の予算内でトップアスリートの講演会が実施できた。一校単独での講演会は予算的にも難しいため、今後も数校合同で講師を招聘することが望ましい。 ・講師を招聘する際のアスリートなどへの連絡や計画などを代表校が窓口になって進めてくれたため、スムーズな取組ができた。講師招聘に慣れた学校と連携し、二條氏のように講演に慣れていて学校や生徒への対応が上手な講師を探すと期待される成果につながる。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度より、オリ・パラ推進校に指定していただき、取組を重ねるごとに、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まってきている。 ・今後も、以下の重点目標を達成すべく、様々な取組を通して東京 2020 大会への機運醸成を図っていく。 <ul style="list-style-type: none"> ①スポーツ及びオリ・パラの意義や歴史の理解 ②海外からの客人をもてなすボランティア精神の育成 ③インクルーシブな社会の構築 ④日本及び世界の文化・伝統の理解 ⑤スポーツへの興味・関心の向上 ⑥SDGs の視点に立った、国際理解・環境教育の実践 ・大会開催後も、引き続き取組を推進していくことで、東京 2020 大会を通した価値ある足跡を残していきたいと考えている。